

## 【目次】

### 1. アーカイブ No.5

- 連載「日本労働会館物語」第 40 回 2013.07.11 発行の第 67 号に掲載
- 2. 2023 年度 第 1 回 理事会が 5 月 16 日(火)友愛会館会議室にて開催される
- 3. 出張講演・UA ゼンセン広島県支部・第 8 回夜間学習会 23 名が参加
- 4. 出張講演・UA ゼンセン・流通部門結成 10 周年記念講演 73 名(東北エリア秋田開催)が参加

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

### 1.アーカイブ No.5

連載「日本労働会館物語」第 40 回 2013.07.11 発行の第 67 号に掲載

連載「日本労働会館物語」第 40 回

<惟一館をデザインしたのは誰かーその 2>

明治 20 年、福澤諭吉らの招聘により米国から来日したユニテリアンは、明治 27 (1894) 年にユニテリアン教会・惟一館（後の日本労働会館、現在の友愛会館）を建設し、「至誠・正義・雍穆」を掲げ、ユニテリアン・ミッションを推進します。この「ミッションの仕事」を達成する上で有効な道具」となったのが惟一館です。

ところで惟一館は、前回記述したようにジョサイア・コンドルの作品としては、「和洋折衷のミョーチクリンな建物」（『鹿鳴館の夢―建築家コンドルと絵師暁英』藤森照信著）と酷評されてきました。



この点について新たな問題提起を行ったのが、ユニテリアン研究者として知られる土屋博政先生（慶応義塾大学名誉教授）です。土屋先生はクレイ・マッコーレイ牧師の手紙（1911 年 10 月 26 日付）を読み解き、そこに「惟一館は私自身の企画とデザイン」との記述を発見しました。以下、当歴史館に寄せられた土屋先生の手紙に記述された、マッコーレイ牧師の英文とその試訳を掲載いたします。

“The Hall is of my own projecting and designing. The architect, when it was building in 1894, complimented me by saying that he had only to make the working plans for my drawings. So, it is the child of my hopes for an efficient instrument with which to do our mission’s work、...”

試訳：「惟一館は私自身の企画とデザインによっています。建築士は、それが 1894 年に建設されていた時、自分はただマッコレーイさんが描かれたデッサンを実行可能な図面にするだけでした、と言って私を褒めて下さいました。ですから惟一館は私たちのミッションの仕事を達成する上で有効な道具になってくれる私の希望の子なのです。」。

この手紙から惟一館をデザインしたのはマッコレーイ牧師であり、コンドルは専門家としてそれを図面に起こしたことになります。マッコレーイの手紙は、藤森照信氏の「和洋折衷のミョーチクリンな建物」、「レベルが低い」とのコンドル批判に、修正を迫るものと言えます。

この点について土屋先生は、「これは藤森氏が和洋折衷を良しとしない審美眼によるものです。もしコンドルが藤森氏と同じように考えていたら、設計を引き受けないか、あるいはマッコレーイに計画案の修正を迫ったと思います。コンドルがそのまま引き受けたということは、彼なりにマッコレーイの考えに賛同し、これを興味深い実験と少なくとも評価をしていたと、私は考えます。」（土屋先生の友愛労働歴史館への手紙）とコメントしています。

また、土屋先生は「もしコンドルが惟一館建築は自分の名声に傷が付くと考えたら、決して引き受けなかったでしょう。マッコレーイはこの惟一館建築の中に東西の宗教文化の融合の理想を込めたのです。この点を積極的に認めるかどうかで、建築物としての惟一館の評価も変わると思います。」（同前）と記しています。さらに土屋先生は「惟一館の和洋折衷の試み」について、藤森照信氏が「惟一館の代表者のアーサー・メイ・ナップ氏が熱烈な和洋折衷主義者だったことが大きい」と推測したことに触れ、「ナップは当時帰国して日本にいませんでしたので、正しくはマッコレーイ」（同前）と指摘しています。

マッコレーイの手紙は、惟一館特異論に一石を投ずるものと言えます。貴重な情報を当歴史館にお寄せいただいた土屋先生に感謝し、来年の「J・コンドル」展の参考にいたします。

## 2. 2023 年度 第 1 回 理事会が 5 月 16 日(火)友愛会館会議室にて開催

理事会の冒頭、議長である宮本代表理事の挨拶で始まりました。

### 〈報告事項と議案〉

代表理事の挨拶を受けて、各担当から 2022 年度の①友愛労働歴史館事業(藤吉友愛労働歴史館館長)、②労使関係研究協会事業(滑川労使研事務局長)、③宿泊事業(菊池総務部長)の報告がされた。その後、滑川常務理事から 2022 年度決算予測が説明された。

なお、次の議案はすべて採択されました。

第 1 号議案 2022 年度 事業報告承認の件について

第 2 号議案 2022 年度決算報告承認の件について

第 3 号議案 2023 年度 常勤役員に対する報酬(案)日本承認の件について

第 4 号議案 特定職員退職慰労金支給承認の件について

### 3. 5/9(火) 出張講演・UA ゼンセン広島県支部・第8回夜間学習会 23名

5月9日(火) UA ゼンセン広島県支部・第8回夜間学習会 23名が、第3回講義「日本労働運動の100年余り」に続いて、今回は「労使関係の考え方と生産性運動三原則」について、それぞれ勤務後に受講した。そして、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」と鈴木文治(人間性と職業能力の向上)・松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージなどが運動の根底に脈々と生きていること。そして、その実践を前提に、組合から見るコーポレートガバナンス、合理化における組合の現状と対処について事例を挙げながら熱心に聞き入っていました。

### 4. 5月24日(水)～26日(金) 出張講演・UA ゼンセン・流通部門結成10周年記念講演 73名(東北エリア秋田開催)

UA ゼンセン・流通部門の東北エリア・秋田開催にて結成10周年の記念講演に藤吉館長が講師として招かれました。講義内容は、友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の100年余を解説。そして流通労働運動の歴史と「一産業一産別」への統合への運動の実態と期待。中でも、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」と鈴木文治(人間性と職業能力の向上)・松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージなどが運動の根底に脈々と生きていること。加えて、流通運動の新たな局面に必要なことなどを講演しました。特にパートタイマーの皆さんが半数を占めており、リーダーシップ論と今後の労働者としての必要なことにも触れました。皆さん関心と興味を引いた様子でした。

-----**「人間の尊厳、進歩と発達のために」**-----

発行: 友愛労働歴史館

責任者: 藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール [yuairodorekishikan@rodokaikan.org](mailto:yuairodorekishikan@rodokaikan.org) HP <http://www.yuairodorekishikan.com>

-----**惟一館から128年、友愛会から110年**-----